

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196100036		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 美唄		
所在地	美唄市西3条南2丁目1-10		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0196100036-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0196100036-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者の方がホーム内外で何らかの役割を持っていたり、意欲的な生活を社会貢献しているという喜びを感じていただいている。特に女性利用者の方は家事全般、男性利用者の方は掃除や除雪などカ仕事全般を担っていただいている。役割を持ち、輝かしい生活を送っていただけるような支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさひの家 美唄」は周辺にショッピングセンター、中央公園、市役所、郵便局などがある美唄の中心街に立地している。平成25年に新築した2階建て2ユニットの新しい事業所で、共用空間は全体的に明るく、各階にある多目的室を有効に活用している。隣りの施設の夏祭りに参加し、近くの同業者に運営推進会議の構成員を依頼するなど、近隣の施設と関わりを深めている。市役所内にある地域包括支援センターからの助言を参考にしたり、社会福祉協議会の協力でボランティアを導入し、利用者が毎月の行事にボランティアの多彩な催しを楽しむ等、行政とも関係を築いている。本部から役員が毎月訪問して事業所運営の基礎づくりを支援し、マニュアルや書類関係も整備されている。事業所内に各委員会を設置し委員の職員を中心に業務を分担している。担当職員と計画作成担当者はモニタリング記録を行い、カンファレンスに利用者や家族の参加を呼びかけて利用者を主体にした介護計画を作成している。利用者の意向に沿ってケアを行い、出来る能力を最大限に活かして役割を作り自立に向けた暮らしを支えている。職員は笑顔で利用者や家族に接し、利用者の出来ることを温かく見守っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全部把握していない職員もいるためこれから実践に向けて進めていく	同一法人の他のグループホームの理念に共感を得て、その理念を当事業所の運営理念としている。理念の中に、「家族・地域社会とのつながりをたいせつに」という地域密着型サービスを意識した内容になっている。職員の採用時や全体会議などで理念の意識化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する障害者施設の夏祭りに参加。事業所としての認知度が低いと課題があると思う	隣の施設夏祭りに全員で参加し、今後も見学を含めて行き来したいと考えている。事業所内で保育園児の歌などを聞いたり、毎月ボランティアの多彩な催しを楽しんでいる。次年度には夏祭りを企画し、地域住民との交流を検討している。	夏祭りの開催時には、近隣、町内会、行政、保育園、グループホームや施設等々、現在関係している方々を招待し、交流を通して利用者の暮らしについて理解が深まるような機会となるように期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な発信が少なかった。どのような方法で行うのが課題である		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催により周知しており協力を仰ぎ助言をいただきサービス向上に努めている	運営推進会議を2か月毎に開催し、町内会長、地域包括支援センター代表、近隣のグループホーム関係者、利用者・家族代表の参加を得て、運営状況や行事などを報告する中で取り組みを説明している。家族の代表に会議案内を送っている。	家族は代表参加になっているが、会議案内や議事録を全家族に送付することで会議への関心が高まり、家族の参加に繋がるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに不定期ではあるが訪問している	地域包括支援センター代表は運営推進会議の構成員にもなっているので、議事録の助言を頂くなど常に相談ができる。介護認定申請の代行手続を直接窓口で行い、行政の担当者とは顔の見える関係作りをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会をホーム内で行い、職員の共有意識を図っている	マニュアルに「禁止の対象となる具体的な行為」を記載し、職員は内容を理解している。外部研修で受講した身体拘束に関する内容を、勉強会等で共有し、「抑制・虐待チェック表」や会議で禁止語などの言葉遣いも確認している。玄関にセンサーを取り付け、利用者の様子を見て対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し勉強会にて周知している		

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止や尊厳についてカンファレンス等している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護については時間をとり丁寧に説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力を行うとともにご家族様来訪時にご意見を伺うようにしている	意見箱を設置している。家族の来訪時には近況報告の中で以前の様子も伺いながら意見を聞いている。意見などは「支援経過記録」や「申し送りノート」に記録し共有している。次年度に年4回は事業所通信を発行し、家族への送付を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体カンファレンスで意見を聞くようにしている	職員は各委員会の2つを担当し業務を分担している。管理者は全体カンファレンスやユニット会議に参加できない職員の意見を事前に聞き、会議で意見を交換している。職員と年に1回の定期的な面談の他、希望時にも相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に職種別に細かく条件が明記されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人指導マニュアルを作成し研修なども行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部GHの訪問見学や講演会を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して事前説明し理解を得ている。また、新規入居者に耳を傾け理解しサービスを提供している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行い本人、家族の希望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いろいろな状況に対応できるよう柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を取り入れ状況の変化に対応できるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議や来訪時に家族の要望を聞いたり情報交換を行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで馴染みの場所へ行ったり家族や友人の来訪が途切れないよう働きかけている	町内会の友人や入居前の趣味仲間の方が来訪し、月に1回は訪れる方もいる。状況を見て居間や居室でゆっくり会話が出来るように配慮している。ドライブのついでに昔住んでいた場所やその周辺を通して、釣りを楽しんだ場所を見てくる時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をしたりレクやドライブ等を取り入れ利用者同士が関わられるよう支援している		

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の利用者でご生存の方がいない			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントとサービス担当者会議において本人の意向を確認している	いつもと違う言動などを支援経過や個人記録に記載し意向を把握している。本人の暮らしの情報はセンター方式のシートに追記し、3~6か月後には作り直して介護計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でのアセスメント等を利用し、本人、家族から聞き取り把握に努めている。入居後も折に触れ、本人、家族から生活歴について聞いている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動パターンを把握し申し送り時などで確認している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によるアセスメントや日誌、個人記録等で把握しプランに反映させている	介護計画の見直しは、新規を1か月後に、その後は3か月後に見直している。職員2名で利用者を担当してモニタリング記録を行い、計画作成担当者が確認して家族の意向をカンファレンスや電話で聞いている。また会議に利用者が参加する事もあり意向に沿って介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡ノートを活用し情報を共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向や家族の意向を確認し出来る限りの対応をしている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紅葉見学、花見、公園散歩など利用者の行きたいところにドライブに行っている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応にての定期受診のほか、往診を実施。その他必要に応じて適切に受診している	3か所の医療機関による訪問診療があり、それぞれに主治医の往診を受けている。かかりつけ医の受診時には家族に口頭で健康情報を伝えている。希望の受診先を支援し、個人ごとの「医療関係報告書」に記録し経過を共有している。		

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1F)	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に薬のことなど相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報交換を含め対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を準備している	利用開始時に医療処置等が必要な時は入院となることを口頭で説明している。病状の変化がある時は主治医の説明を家族に伝えたり、往診時に家族が来訪し主治医から直接に聞くこともある。今後は口頭で説明している内容を文章化し、事業所の対応指針を検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルで周知している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回実施している	消防署立会いの下で夜間を想定した避難訓練に利用者も参加しているが、地域住民の参加は得られていない。災害備蓄品類を保管し発電機なども用意している。職員の救急救命訓練は消防署で行っている訓練を受講する予定である。	夜間想定避難訓練には、地域住民の役割を明確にし、町内会役員や近隣住民の参加を得ての実施に期待したい。職員の救急救命訓練を3年に1回は受講できるように計画的な取り組みを期待したい。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを作成し適切な声掛けができるよう周知している	ケア向上委員会で接遇を学んでいる。新入職員には、マニュアルを渡し説明をしている。申し送りでは、個人名を出さないようにしてプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認し自己決定しやすい環境づくりを目指している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のマニュアルに沿いながらも個人個人の希望に添えるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に任せているが、出来ない利用者にはこちらから支援している		



グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けや準備は出来る範囲で協力いただきメニューもいろいろと変化させて外注も含め楽しめる様に工夫している	献立は、利用者の希望を聞き職員が作成している。不足の食材がある時は、利用者と一緒に買い物をしている。ゆで卵の殻むきや米研ぎ、いなり寿司の巾着にご飯を詰めたり茶碗洗いなどを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し職員間で把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、介助が必要な方は介助している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えるタイミングやサイン行動を把握しトイレ誘導している	本人が水を流せるよう操作方法をメモにして貼っている。日中は、布パンツで過ごし夜間は紙パンツに替えトイレでの排泄を支援している。夜間は寝具に鈴を付けるなどの方法で迅速にトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなどを多く取り入れ必ず野菜も摂取できるメニューとし、水分も多く摂取するよう促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯量の関係で曜日は決まっているが入りたいという利用者には曜日関係なくその時に入ってもらっている	浴室に窓があり、明るい環境で1日3人ずつゆったりと入浴している。浴室で歌を歌ったり、会話をしながら週に2回以上はお風呂に入っている。入りがたくない気分の時は、本人の納得できる言葉で説明をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に消灯時間は本人に任せている。日中は体を動かし夜間良眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が何の薬を服用しているか把握し毎食後全利用者に介助見守りで服薬してもらうようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で役割を持って活動していただいたり、みんなで出来るレクを取り入れたりしている		

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブをはじめ、いろいろとレクを計画し対応している	天候に応じて柔軟に外出している。道路を渡った向かい側にある中央公園に散歩に出かけたり、車で桜の名所や宮島沼などの市内の有名な観光地に外出している。来年度は、駐車場の外構工事をする予定なので、ベンチを置いたり畑を作って気軽に外に出られるよう検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は自己管理できる方のみしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時はいつでも電話をかけれるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような飾りつけを工夫している。また、温度や湿度にも気をつけている	直線の廊下の左右に居室や洗面所、浴室、トイレが並び、窓から明るい日差しが入っている。居間は、大型テレビ、ソファ、藤のゴミ箱、木枠の時計など一般住宅と同じ調度品が配置されている。テーブルの上には、リモコンや新聞紙があり、壁には行事や生活の様子を写した写真を飾り、居心地のよい空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方が自分で決めた場所で思い思いに過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家で暮らしていた部屋づくりの工夫をし、馴染みの家具を持ち込んでいただいている	入り口に本人の笑顔の写真を飾っている。壁にメモを貼り、居室で過ごしている時の心配事を軽減できるようにしている。ベッドやカーテン、筆筒、冷蔵庫、テレビなどを置き、床にカーペットを敷くなど居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方が得意とするものを行ってもらう。本人の出来ることを引き出して行ってもらう		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196100036		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 美唄		
所在地	美唄市西3条南2丁目1-10		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0196100036-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0196100036-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はユニットの事務所付近に掲示している。理念については会議中、管理者が取り上げたり日々の業務の中で職員間で話し合っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りの行事に積極的に参加している。近くのスーパー等に職員と共に買い物に出かけ、近隣の方々と交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	申込み希望者や見学者の方々に認知症についての説明やGHでの生活の様子について伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催している。事業所の現状や日々の活動内容している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者や包括支援センター職員とは日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会をホーム内で行い、職員の共有意識を図っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会等に参加し、勉強会やミーティング等を実施している		

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会及びマニュアルを作成し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等は時間を取り丁寧に説明。特に利用料金や起こりうるリスク、個人情報の取り扱いについて詳しく説明し同意を得るようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。家族等に常に問いかけるなど話しやすい雰囲気づくりに努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体カンファレンス等で意見を聞くようして改善できる問題については改善し、常日頃からコミュニケーションを図るように心がけている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	企業内の制度について必要な見直しを行い法律に合わせ育児休業・介護休業等就業規則を改善している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修には多くの職員が参加し、全体カンファレンス等で研修報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時に他事業所の人材の意見や経験をケアに生かしネットワークづくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人に見学していただき現在困っている問題等を事前に聞き、生活が不安にならないように努めて暮らしている家の生活状況を確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から不安な事、困っていることを聞き、不安な思いをしないように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には電話で連絡したり、来訪された際、大切なサービスはどのようなものかをしっかり検討し話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おしぼり洗い、食器拭きと片付け、テーブル拭きなど生活場面におけるお手伝いを職員と行うことでコミュニケーションを築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族が思い考えている内容をしっかり聞き、利用者がどのように生活し過ごしたいのか理解し、情報共有に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人がホームに気軽に遊びに来れるよう親しみのある雰囲気づくりに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々が役割を持ち互いに交じり合えるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて経過をフォローしこれまでの関係を大切にできるように支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中、言葉・表情・行動等から利用者の思いを把握できるように心がけている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式、ライフヒストリー、アセスメント等利用し、又、入居後本人や家族から生活歴について聞いている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個別アセスメントで日常生活を把握し日々の変化や行動等を観察している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間でカンファレンス、申し送りをを行い、利用者の毎日の生活行動をモニタリング、意見交換しその人らしいプランになるように心がけている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフでの情報共有をし、気づきや利用者の変化には個別のアセスメントを実施。毎日の日誌を元に介護計画の見直しや評価を行っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心して生活できるように医療連携体制を生かし、本人・家族の状況や要望を聞き、臨機応変に対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らせるよう町内会長、包括支援センターと話し合いをしている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の他、通院は家族対応だが不可能な時はスタッフが付き添いを行っている。往診、通院ともに本人や家族の希望する医療機関を選択してもらっている			

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の往診、受診を配置して利用者の健康管理を行い、状態変化に応じた支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援、基本情報を医療機関に提供し又家族とも情報交換する。スタッフは毎日病院に通い病院関係者と情報交換しながら退院支援に結び付けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアは行っていないため終末期は医療機関に任せるよう入居時に説明している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフルームには日勤、夜勤時の緊急対応についてマニュアルを掲示し周知を図っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中夜間を想定した避難訓練を年2回実施。運営推進会議でも災害時のお互いの協力体制を話し合う		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体カンファレンスや日々の申し送りの折にスタッフの意思向上を図り、日々の支援を見直し、言葉かけなどに気を付けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めたことを押し付けず、利用者を選択肢を提案し自分で決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるができるだけ個別性のある支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問理美容の利用のほか、普段のみだしなみにも気を配っている		



グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食には外注を利用。食事は旬の食材、彩りを考え新鮮な食事を取り入れマンネリ化を防いでいる。その他、軽い下準備や下膳、食器拭き、片付けは利用者の協力を得ている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	間食、おやつ等も含めて1日全体の食事・水分摂取量の記録をしてスタッフが行い管理している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後時に口腔ケアをし利用者の力に応じて声かけ見守り支援を行っている。就寝時には義歯洗浄剤を使用している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援を行っている。布パンツと紙パンツを時間帯で使い分け適時トイレ誘導を行い失禁を減らすようにしている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて食物繊維や乳製品を取り入れたりオリゴ糖を使用している。また、午前、午後の運動を取り入れている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上は入浴できる体制でいる。入浴拒否の場合は誘導の仕方や声かけに工夫し時間をかけて納得していただき入浴してもらっている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し日中に熟睡しないよう心がけ余暇活動への参加を促し夜間の良眠につなげている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書をケースごとに保管しスタッフが薬の仕分け時に内容を把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持ってお手伝いしてもらっている。洗濯物たたみ、掃除、食事の支度などを通して役割を持ち生き生きと生活していただいている			

グループホームあさひの家 美唄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の隣にあるスーパーに天気の良い日に食材を買いに利用者で行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者には自己管理していただき買い物にも行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を利用してもらっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルームなど共有空間では見守りの中、安心してくつろげるようにしている。廊下には行事の写真や季節ごとの装飾を施している。温度・湿度にも気を配り心地よく過ごせるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分専用の食卓テーブル席の他、ソファで談笑できるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みの物を持ってきていただき居心地の良い空間を作っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。廊下の手すり、居室の名札の他、便所と書いたトイレの名札を手作りで親しみやすくわかりやすいものを用意している		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家 美唄

作成日：平成 26年 4月 9日

市町村受理日：平成 26年 4月 9日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.4	昨年の運営推進会議は家族代表の方だけに意見をいただいていた、他のご家族の意見をいただけなかった。	今年度よりたくさんの御家族から意見や話し合いたいテーマをいただく。	御家族全員に会議案内文を送り事前に話し合いたいテーマをいただく。また、会議議事録は毎回ご家族全員に送付する。	1か月
2	No.2	昨年は施設の外構工事が出来ず、夏祭りは施設内で行ったため地域の方たちとの交流が図れなかった。地域に発信するためにもどのような形で交流を図るかが課題である。	今年春より外構工事を行うため今年からの夏祭りは外で行い、地域の方をお呼びし交流を図りたい。交流を図ることでグループホームあさひの家美唄を地域に発信したい。	町内会の役員、ご家族、地域包括支援センター、西保育所、近隣のグループホームに案内状を出し参加を募る。	3か月
3	No.35	消防署協力の避難訓練は年1回であり、昨年は施設職員のみで行った(地域の協力を仰がなかった)。また、職員の救急救命訓練が出来なかった。	今年度より避難訓練実施時には町内会の協力を仰ぐ。また、救急救命訓練を受講する。	運営推進会議にて町内会にお願いし、避難訓練に町内会役員に参加していただく。また、消防署の方に来ていただき救急救命訓練を全職員が受講する。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。